

学習指導改善調査研究事業

県小教研 学習指導改善調査

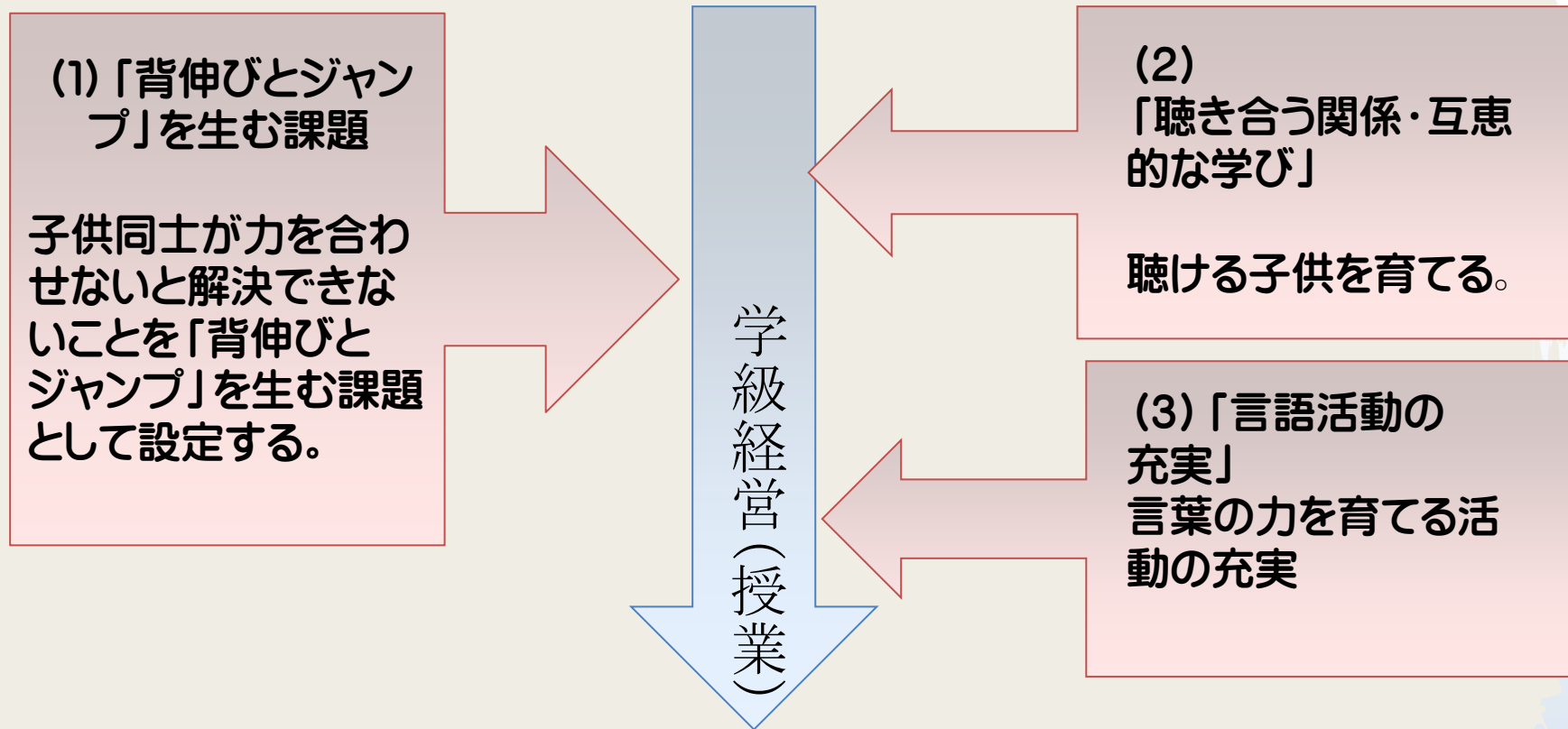
協力校としての取組

(2年次)

長岡市立黒条小学校

個の学びが育つ授業を目指して

～協同学習の中で言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を高める～



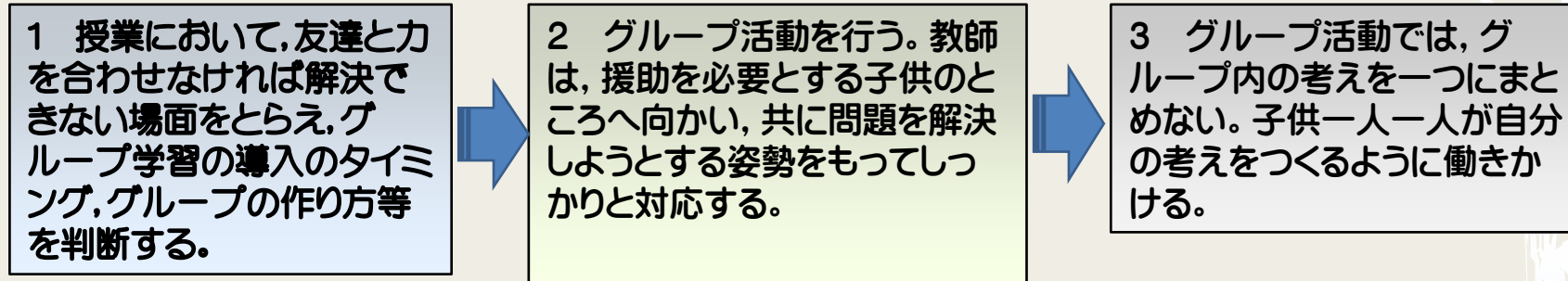
思考力・判断力・表現力の育成

当校では、標記を校内研修主題として取り組んできました。授業を学級経営の中心に位置づけ、日々の授業において、個々の子供がその子らしい考え方や取り組み方で追求することを保障し、互いに交流しながら深めていく姿を大切にしています。

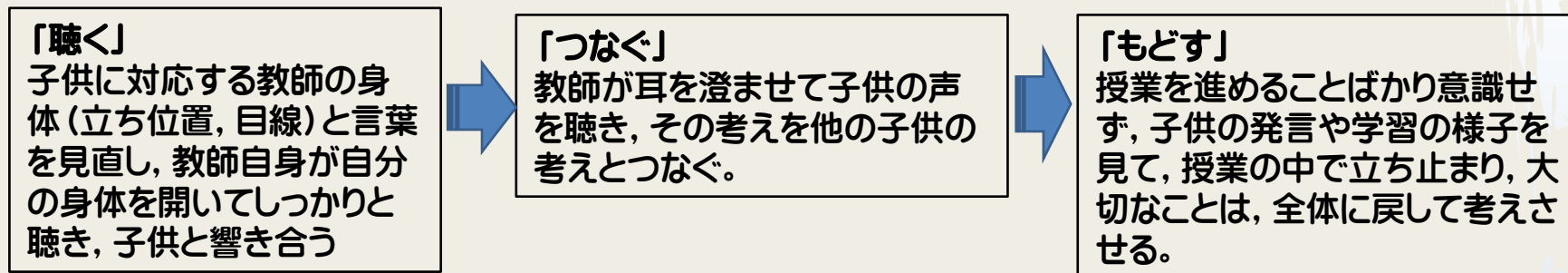
今年度も、大きく3つの取組を柱として思考力・判断力・表現力を育て、どの子どもにも確かな学力の向上を図ることを目指してきました。1つめは、「背伸びとジャンプ」ができる課題設定を工夫すること。2つ目は、「聴き合う関係に支えられたしっとりとした落ち着いた授業」「学び合いの中で学習が深まる授業」をイメージし、協同学習の「互恵的な学び」を行える「ペア学習・グループ学習」により聴ける子供を育てること。3つ目は、協同学習の中で、言語活動を意図的に位置づけて取り組みました。

3つの対話の取り入れ方

グループ学習では



教師の仕事「聴く・つなぐ・もどす」の追求



【グループ活動】

はじめに、授業において友達と力を合わせなければ解決できない場面をとらえ、グループ学習の導入のタイミング、グループの作り方などの判断をします。

次に グループ活動では、子どもに寄り添い、共に問題を解決しようとする姿勢をもち、しっかりと対応をします。

更に、グループ活動から、グループ内の考えを無理に1つにまとめず、子ども一人一人が自分の考えをつくるように働きかけます。

【授業における教師の役割】

聴く・・・子どもに聴く態度を育てるためには、まず教師がしっかりと子どもに向き合い、聴く姿勢をもちます。

つなぐ・・・ある子供の考えを聴き、「この子は、あの子の考えとつないで発言しているんだな」「この子は、あの子の考えとつながるかも知れない」と受け止めます。教師は、うまく自分の考えを表現できない子供の発言には「こういうことを言いたいんだよね」と考えをつなぐ役目をしています。

もどす・・・発言できる子が中心になって授業が進むと、意見が安定してしまい、発言できない子はわからないまま学習が進んでしまいます。そこで、「今のことはどういうことを言っているか、隣の人と少し話し合ってみて」などと、全体からペアやグループに一度返して考えの見直しをさせながらもう一度全体に戻す方法を取り入れ考えさせています。

II 県小教研 学習指導改善調査とのつながり

調査結果から当校の現状と改善事項

当校の子供の実態

- 必要な情報は選ぶことはできる
- △その情報に自分の考えを付け加え表現する
- △多様な考えを図、式、言葉で表現する



- 1 子供たちが意欲的に学習に取り組むための課題を工夫する
※背伸びとジャンプの課題
- 2 意図的に学習活動の中に表現（聴く・話す・書く等）の場を位置づける
- 3 友達の考えの聴き方、発表の仕方、考えの書かせ方等、言語活動にかかわる基礎的な力を高めていく



学習指導改善調査でねらう力の育成

学習指導改善調査でねらう力を受け、調査結果から当校の現状と改善事項について、全体の傾向として、当校の子供は、必要な情報を選ぶとはできるが、その情報に自分の考えを付け加え表現したり、多様な考えを図、式、言葉で表現したりすることが苦手であることがわかりました。そこで、これらの実態を改善し、学習改善調査でねらう力を育成するために、3点に留意しながら、学習活動(協同学習)の中において「言語活動の充実」を図ることにしました。

背伸びとジャンプの課題

【国語】

言葉に敏感に繊細に、作品のおもしろさや楽しさを十分に味わえるよう、表現しながら作品に親しませる学習

- ・国語では、ジャンプの課題は作りにくい。
- ・言葉に敏感になるように、文の前後を繰り返し読ませる。
- ・登場人物の解釈についての分析ができる子供を育てるのではなく、本が嫌いにならない子供を育てる。

【算数】

少し抵抗感のある課題を設け、既習内容（教科書レベル）を活かしながら、図、式、言葉を用いて、考えたり、考えたことを説明させる学習

- ・2つの公約数→3つの公約数を考えさせる。
- ・平行四辺形の面積＝底辺×高さ→長さが書いていない図からどこが分かれば面積が求められるかを考えさせる。

子供たちが意欲的に学習に取り組むための課題の工夫として、「背伸びとジャンプ」の課題を考えています。

国語では、ジャンプの課題は作りにくいこと、言葉に敏感になること、表現しながら作品に親しませる学習を目指しています。物語文などでは、分析的な授業になりがちですが、本が嫌いにならない子供を育てることを目的としています。文章を繰り返し読むことでわかることがあるため、書かれてある言葉にたくさん触れさせることを大切にしています。

算数では、少し抵抗感のある課題を設け、教科書レベルの内容をもとに「発言できる子」にも少し難しさを感じる課題に挑戦させています。図、式、言葉を使って考えたり、考えたことを説明する学習を組織します。このように、授業の中に言語活動を意図的に設定することにより、自分の考えを表現する場を常に位置づけています。

【子供たちが意欲的に学習に取り組むための課題の工夫】

算数の場合

やさしい課題

発表する授業
△充実感が持てない

発言できる子中心の授業

より高い課題に挑戦させる場の設定

前半 教科書の問題に挑戦



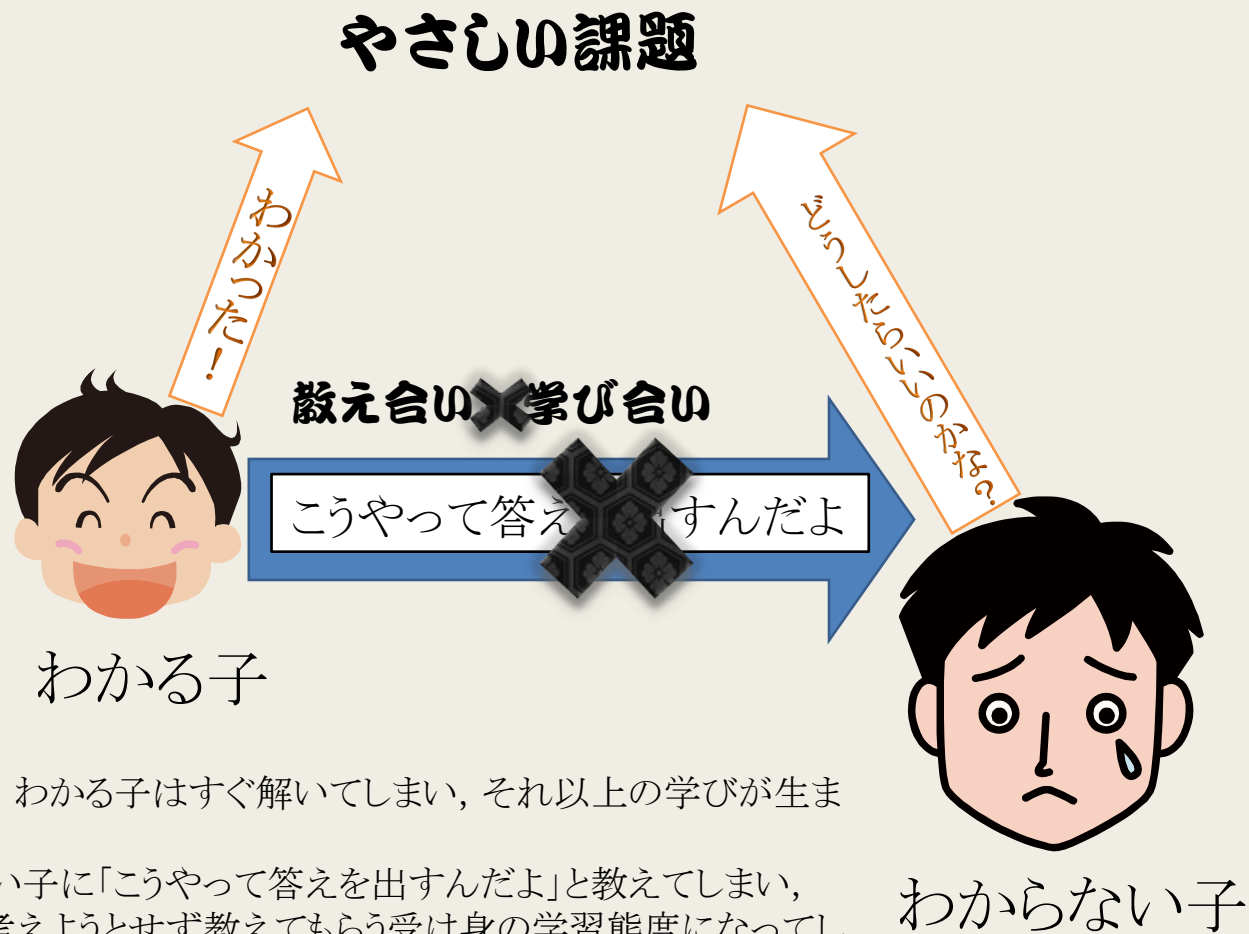
後半 より高いレベル（前半で学習した内容を活かしてできる発展問題）に挑戦

背伸びとジャンプの課題

課題がやさしすぎると、発言できる子だけが今持っている力だけで「分かっている」ことだけを発表する授業となり、できる子にとって充実感が持てなくなります。そこで、より高いレベルに挑戦させる場を意図的に作る必要があります。

算数を例にすると、学習前半は教科書レベルの内容に挑戦させ、後半は一步高いレベルに取り組ませることを大切にしています。これが「背伸びとジャンプの課題」になります。

課題のとらえ



課題がやさしすぎると、わかる子はすぐ解いてしまい、それ以上の学びが生まれません。

分かる子は、分からない子に「こうやって答えを出すんだよ」と教えてしまい、わからない子は自分で考えようとせず教えてもらう受け身の学習態度になってしまいます。教え合いは学び合いにはならないこととなります。

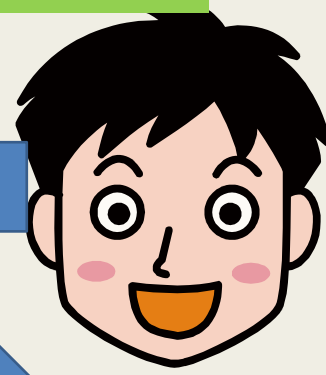
ジャンプの課題

やさしい課題

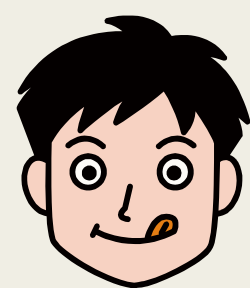
グループ学習での学び



なるほど！



こうじゃないかな！



わかる子



わからない子

課題を少し難しい内容のものに意図的に設定します。これがジャンプの課題です。難しい課題に挑戦させ、グループで一緒に考えさせます。わかる子もわからない子もグループで一緒に考えることを通して、互いに考えたことを出し合ったり気付いたことを話し合ったりします。そうした考える活動を通して、前にやって分からなかったことが、「ああいうことだったのか！」と気付くことがあります。この少し難しい課題に挑戦することを繰り返す経験が大切になります。

【グループ学習のとらえ】

グループ学習は、考えを1つにまとめることではなく、一人一人が自分の考えをはっきりさせたり、深めたりすることが目的である。そのために、他の子供にわからないことを尋ねたり、わからないことに答えたりせざるを得ない状況に追い込む場（グループ活動）を意図的につくる。



こういうこと
じゃない？

何
何と言っているのかわからない

これってどういうこと？

どの子供にも学びを保障する

グループ学習では、考えを1つにまとめることが目的ではなく、子供同士がわからないことを尋ねたり、わからないことに答えたりせざるを得ない状況に追い込むことを通して、一人一人が自分の考えをはっきりさせたり、深めさせ、どの子供にも学びを保障することにつながっています。

学習形態

全体



中・高学年(4人グループ)

中学年以上の全体での学習では、基本的にコの字型で座り、顔を向き合せて学習します。

低学年では、ペア学習を基本とし、隣同士で「ここはどうか？」と気軽に話し合える雰囲気を大切にしています。

中学年以上になると、4人グループでの話し合いを基本として、自分や友達の考えを交流させ、学習内容の理解を深めていきます。



低学年(ペア)

2017/6/25 14:18

友達の考えの聴き方，発表の仕方，考えの書かせ方等，言語環境を整備する

わからないと聴かれたら，必ず答える
自分の分かる範囲で必ず答える

友達の考えを聴く

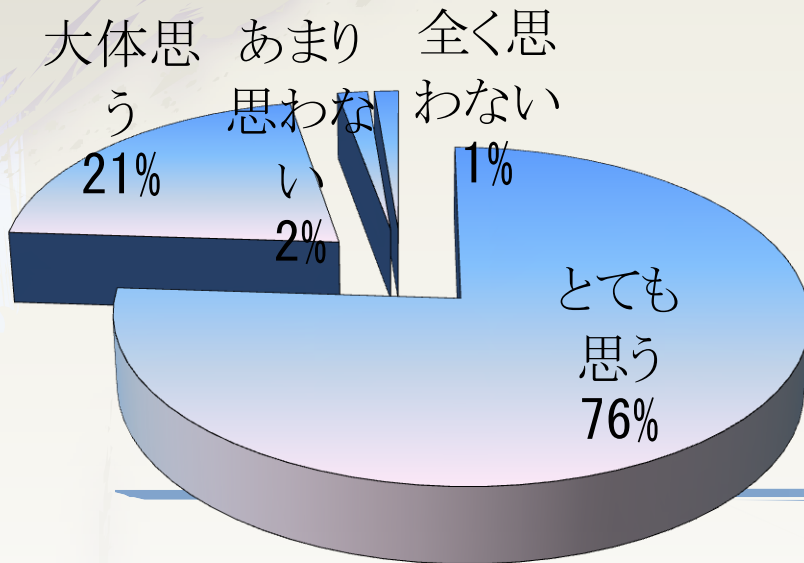
教師が聴く姿勢を大切にする

言語活動の充実

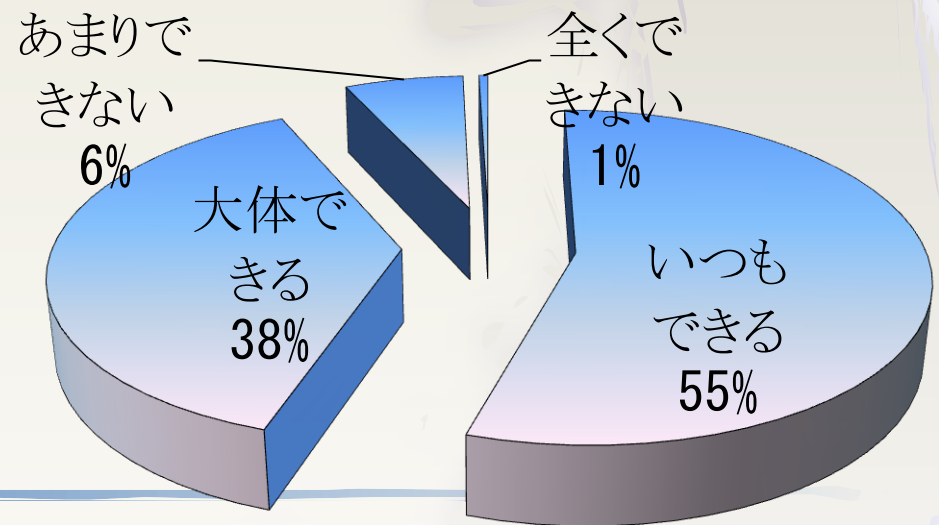
日々の学習活動の中では、「わからないから聴かせて」と言われたら必ず答えることをマナーとしています。聴かれたら自分のわかる範囲で必ず答えてあげる人間関係が築けるよう，学級経営や学習指導を大切にしています。言語表現を充実させるためには，表現力(話す・書く)に力点を置きがちになりますが，本来はまず「聴くこと」が大切であると捉えています。子供同士が友達の考えにきちんと向き合い，自分なりに解釈し，表現につなげていく言語活動を充実させれば，思考力，判断力，表現力の育成につながると考えています。そのような子供の姿を期待するため，まず教師自身がきちんと子供と向き合い，聴く姿勢をもつことを大切にしています。

子供アンケートから (H24. 7実施 対象621人)

あなたは、みんなと一緒に学習することはよいことだと思いますか。



あなたは、自分がわからないことやできないことがあった時、友達や先生に「これどうするの?」ときくことができましたか。



「みんなと一緒に学習することはよいことだ」と肯定的に感じている子供が97%、「わからないこと、できないことがあった時これどうするの?」ときくことができる子供が93%と学習に関する意欲・態度面で高い評価を得ました。今後は、あまりよさを感じていないと答えた1割弱の子供に対し、机間指導や丁寧な見取り、家庭学習への取組方などを重点的に指導すると共に、みんなで学習することの楽しさ、よさを感じとれるよう日々の授業改善に取り組んでいきたいと思ひます。

家庭学習交換ノート①

リレー式家庭学習ノートの取組

7 / 14

算 P91

5

式 $8 - 4 = 4$ 長さを求める式なの

$7 - 5 = 2$ 忘れずに!

$$5 \times 2 \times 8 = 80$$

$$5 \times 5 \times 4 = 100$$

$$100 + 80 = 180$$

A 180 cm³

他にも...

$$5 \times 2 \times 4 = 40$$

$$5 \times 7 \times 4 = 140$$

$$40 + 140 = 180$$

$$5 \times 7 \times 8 = 280$$

$$5 \times 5 \times 4 = 100$$

$$280 - 100 = 180$$

があります!

が、 のここはどっちも必要です。

い書ろわ
といやす
思てれ
いまあ
した。大
へとこ
ここと
もか
良こ



「おれ
きをつけ
なけれ
ば」



「おれ
きをつけ
なけれ
ば」

① たて切り ② 横切り ③ 全体からひく

①② たて切り

$$2 \times 2 \times 4 = 16$$

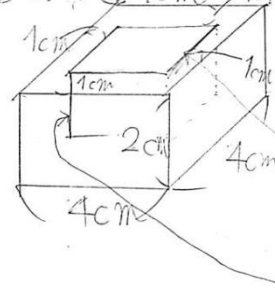
$$4 - 2 = 2$$

$$2 \times 2 \times 2 = 8$$

$$16 + 8 = 24$$

A. 24 cm³

③ あった 1cm



左のような
容積を求めるには...

$$4 - (1 + 1) = 2$$

$$4 - (1 + 1) = 2$$

$$2 - 1 = 1$$

$$2 \times 2 \times 1 = 4$$

A. 4 cm³

 さんへのメッセージ)

いままでにやったいろいろな体積の
求め方を復習しているのでもいいと
思います。

友達の家学習の仕方を参考にし、自分の学習方法に活かせるものは取り入れてよいことにしました。「○○さんのノートはとてもきれいに書かれてある」「誰がどんな学習の仕方をしているのか親として興味がある」「自分の子はどんな勉強をしているか見るようになった」など保護者の関心も高まった言葉を聞くことができました。

家庭学習交換ノート②

左側
問題

この学習ノートは、自分達で問題作りをして解き合う方法をとっています。ページを真ん中で山折りにし、左側は問題、右側は答えを書きます。問題に挑戦する友達は、左側の問題をやります。その後、解いたら右側の答えで答え合わせをします。

算数

名前と教科を書く

① $\frac{2}{3} + \frac{1}{5}$

② $\frac{5}{7} + \frac{2}{8}$

③ $\frac{3}{4} + \frac{1}{6}$

④ $\frac{1}{2} - \frac{5}{8}$

⑤ $\frac{3}{5} - \frac{2}{9}$

⑥ 0.9×7.8

⑦ 0.01×85

⑧ $4.9 \div 0.5$

⑨ $8.2 \div 0.02$

⑩ なおみさんは1週間560分勉強しました。毎日同じ時間勉強し、1日あたり何時間勉強したでしょうか？
式と答えも書きました

⑪ 点対称な四角形とはどんな四角形のことでしょうか？

① $\frac{8}{15}$

② $\frac{54}{56} = \frac{27}{28}$

③ $\frac{11}{12}$

④ $\frac{1}{8}$

⑤ $\frac{12}{45} = \frac{4}{15}$

⑥ 7.02

⑦ 0.85

⑧ 9.8

⑨ 410

⑩ 式 $560 \div 7 = 80$
答え 80分

⑪ 1つの点を中心にして180°回転すると重なり合う図形

問題と答えは反対側

1ページを半分にした左側問題、右側答えにする

真ん中をたてに半分に折る

右側
答え

-マス-文字が1マスおきに行くとする

実際のノート

下の表は、時速30kmで走る自転車の、走る時間と時間とこのときに進む道のりy kmの関係を表したものである。

時速30kmで走ったときの時間と道のり

時間x	1	2	3	4	5	6
道のりy	30	60	①	②	③	④

▶ ① ~ ④ にあてはまる数字をかきましょう

⑤ yはxに比例しますか。

⑥ y:2の値はいくらですか

⑦ xとyの関係式を式表しましょう。

⑧ この自転車か8時間に進む道のりは何kmですか。

右の答えで答え合わせをします。このように、子供同士の関わりを学校だけでなく、家庭学習の場でもつくり出すことができます。ノートを介しての関わりも大切な場としてとらえています。

算数

下の表は、時速30kmで走る自転車の、走る時間と時間とこのときに進む道のりy kmの関係を表したものである。

時速30kmで走ったときの時間と道のり

時間x	1	2	3	4	5	6
道のりy	30	60	①	②	③	④

▶ ① ~ ④ にあてはまる数字をかきましょう

⑤ yはxに比例しますか。

⑥ y:2の値はいくらですか

⑦ xとyの関係式を式表しましょう。

⑧ この自転車か8時間に進む道のりは何kmですか。

答え

① → 90

② → 120

③ → 150

④ → 180

⑤ 比例している

⑥ 30

⑦ $y = 30 \times x$

⑧ $y = 30 \times 8 = 240$
240km

おわりに

より質の高い学びにつながる質の高い課題・グループ学習の設定

現在、子供たちの話し合う力の質を上げ、子供一人一人を参加させる場面を確保し学びを保障するために、自力解決の時間はとらず、自分の考えをもつためのペア・グループ学習を取り入れながら問題解決を図っています。問題解決の場面では、個人やグループにより解決の進度が違うため、早く解決できた子は遅い子、遅いグループを待つことが多くなってしまいます。そうすると、早く終わったグループはだらけてしまい、教室の学習のリズムが悪くなります。そこで、グループの活動の質を上げるため、だらける前に全体の交流を入れ、簡単な交流を踏まえてまたグループに戻す方法をとっています。そこで、学習の進度に差が出てきたようなら、一度グループ活動を止め、全体に返し、「今グループでどんなことが話に出てきたか、ちょっと紹介して？」などとグループで出た意見を紹介させます。このことで、考えが停滞しているグループの子供たちには考え方の方向が示され、グループ活動が活性化させられるように配慮しています。学習活動の終末に全体交流をやろうとすると、どうしても全てのグループがある程度できるまで待たなければなりません。問題解決できた子供、できたグループが間延びしないよう、どのようにグループ学習を組み込んでいくか、また、問題解決に時間がかからない子供も抵抗感をもって挑戦する質の高い課題とはどういうものかについて、今後も研修していかねばならないと考えています。

最後に、日々の授業には、学習内容を理解するだけでなく、心の豊かさ、優しさ、思いやり、集団のルールなど子供たちに伝えたい内容がたくさん詰まっています。友達考えに働きかける「〇〇さんの気持ちがわかるかな？」のような、友達考えに共有を促す言葉をはじめ、子供同士が「〇〇さんの考えをもう一度聴かせて」とか、何かわかりかけてきた時に「〇〇さんの言いたいことはこういうことかな？」など、聴く側の子供も発表者、発言者に寄り添い、互いに相手の考え方を理解しようとする思いやりの気持ちをもった関わりができるよう今後も取り組んでいきたいと思ひます。